

## 第4回小金井市児童発達支援センター運営協議会 次第

日時：令和3年5月27日（木）午前10時から

場所：小金井市役所本庁舎3階第一会議室

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 委員・事務局紹介
- 4 副会長の互選について
- 5 令和2年度の実績報告
- 6 新型コロナウイルス感染症の影響について
- 7 巡回相談事業について
- 8 令和3年度講演会・研修会について
- 9 今後の開催日程について
- 10 その他
- 11 閉会

### ■配布資料

- 資料1 小金井市児童発達支援センター運営協議会委員名簿
- 資料2 令和2年度の実績報告について
- 資料3 新型コロナウイルス感染症の影響について
- 資料4 きらきらサポート2020報告書
- 資料5 令和3年度巡回相談事業について
- 資料6 令和3年度講演会・研修会について
- 資料7 令和3年度運営協議会開催日程について
- 参考資料 意見提案シート

## 小金井市児童発達支援センター運営協議会委員名簿

氏名	選出区分	所属	任期
亀井 瞳	市民公募	市民公募	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
宮崎 笑美子		市民公募	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
遠山 敬子		市民公募	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
五味渕 裕子	市内関係団体	小金井市障害者地域自立生活支援センター	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
佐々木 由佳		朋愛幼稚園長（民間幼稚園長会）	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
吉見 絵里		小金井なないろ保育園長（民間保育園長会）	令和2年8月1日から 令和4年3月31日まで
宇田川 麻里		たけのこ会代表	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
中島 雄佑	学識経験者	東京都立小金井特別支援学校長	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで
小川 順弘		モンゴル・マルガド大学名誉教授、 明星大学及び文京学院大学兼任講師	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
不破 淳一	関係行政機関	本町小学校長 （小金井市立小中学校校長会）	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで
秋葉 美苗子		子ども家庭支援センター長	令和2年4月1日から 令和4年3月31日まで
向井 隆一郎		教育委員会指導室指導主事	令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで

※敬称略

## 令和2年度の実績報告について

令和3年3月31日現在

	令和2年									令和3年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①相談支援事業（一般）	3件	5件	17件	15件	22件	26件	18件	22件	20件	27件	7件	20件	202件
②相談支援事業（専門）	30件	36件	53件	72件	69件	72件	78件	91件	81件	103件	85件	97件	867件
③相談支援事業（㊦）	138件	206件	179件	178件	194件	239件	251件	220件	232件	210件	182件	233件	2,462件

	令和2年									令和3年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
④児童発達支援事業	22人	22人	22人	22人	22人	22人	22人	22人	22人	22人	22人	22人	-
⑤放課後等デイサービス	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	49人	-
⑥保育所等訪問支援事業	0人	0人	1人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	1人	0人	0人	3人
回数	0回	0回	1回	0回	0回	1回	0回	0回	0回	1回	0回	0回	3回
⑦親子通園事業	15人	15人	15人	23人	22人	24人	25人	25人	25人	25人	25人	25人	-
回数	0回	0回	6回	9回	10回	9回	5回	9回	9回	9回	5回	5回	76回
⑧外来訓練事業	108人	108人	108人	108人	120人	122人	122人	122人	125人	123人	123人	122人	-
回数	38回	0回	260回	242回	278回	332回	293回	293回	282回	278回	246回	293回	2,835回
⑨巡回相談事業	-	-	-	-	-	-	7回	6回	7回	6回	5回	1回	32回
その他	11月：市民講座等の代替として紙面講座を発行。12/11：支援者研修（オンラインにて）。												

## 各事業の報告内容について

①相談支援事業（一般）	新規の相談の方が対象
②相談支援事業（専門）	継続相談の方が対象。計画相談等も含まれる。
③相談支援事業（㊦）	相談者、関係機関等との電話での相談。一般相談予約数を含む。専門相談予約数は含まない。
④児童発達支援事業	登録者数
⑤放課後等デイサービス	登録者数
⑥保育所等訪問支援事業	登録者数及び実施回数
⑦親子通園事業	登録者数
⑧外来訓練事業	登録者数及び実施回数
⑨巡回相談事業	巡回訪問実施回数（きらきらサポート分、令和元年度から2年間試行実施）、学童巡回は含まれていない。

## 令和3年度の実績報告について

	令和3年										令和4年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
①相談支援事業（一般）	23件												23件	
②相談支援事業（専門）	49件												49件	
③相談支援事業（ <b>㊦</b> ）	176件												176件	

	令和3年										令和4年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
④児童発達支援事業	21人												-	
⑤放課後等デイサービス	49人												-	
⑥保育所等訪問支援事業	0人												0人	
回数	0回												0回	
⑦親子通園事業	30人												-	
回数	7回												7回	
⑧外来訓練事業	130人												-	
回数	320回												320回	
⑨巡回相談事業	-												0回	
その他	研修等企画中。													

## 各事業の報告内容について

①相談支援事業（一般）	新規の相談の方が対象
②相談支援事業（専門）	継続相談の方が対象。計画相談等も含まれる。
③相談支援事業（ <b>㊦</b> ）	相談者、関係機関等との電話での相談。一般相談予約数を含む。専門相談予約数は含まない。
④児童発達支援事業	登録者数
⑤放課後等デイサービス	登録者数
⑥保育所等訪問支援事業	登録者数及び実施回数
⑦親子通園事業	登録者数
⑧外来訓練事業	登録者数及び実施回数
⑨巡回相談事業	巡回訪問実施回数（きらきらサポート分）、学童巡回は含まれていない。

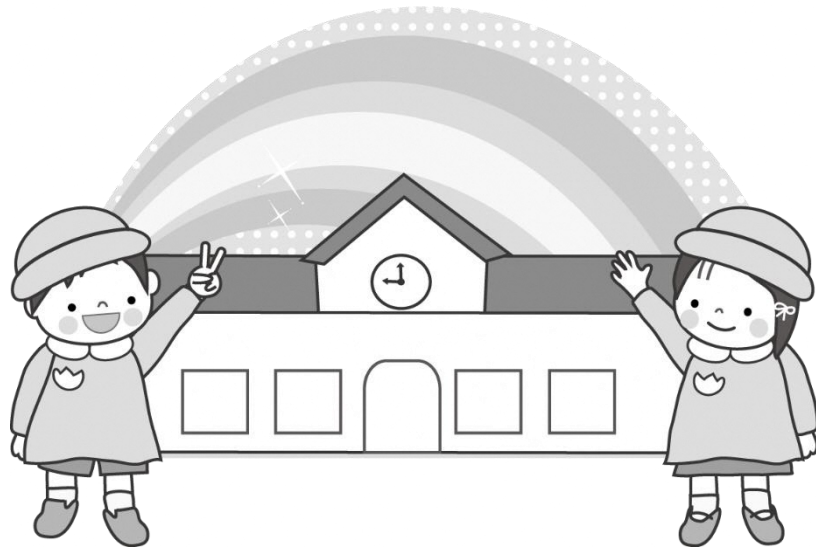
## 新型コロナウイルス感染症の影響について

(令和3年5月17日現在)

- ◆昨年度より実施している感染拡大防止のための通園・放課後等デイサービスの行事内容の縮小・変更、外来訓練・親子通園を15分早く終了して消毒・換気を行うなどの対策は現在も継続している。
  
- ◆東京都への緊急事態宣言（令和3年4月23日発出）後の様子
  - ◎令和2年度中の緊急事態宣言に関連した期間は、外来訓練の利用料の欠席分の負担をなくし、1月以降は振替を行わないこととしたが、今回は利用料についての変更は行っていない。
  - ◎事業実施の有無の問い合わせは5件。
  - ◎令和3年4月以降、感染症対策として利用を控えている方は、全事業合わせて3名。
  
- ◆感染者数の増加、変異株の影響など子どもの集団の場での感染拡大も懸念されることから、職員間で対策の再確認をしながら事業を継続している。
  
- ◆三密を避けるための部屋の調整は引き続き苦慮している。

小金井市児童発達支援センター きらり

# きらきらサポート 2020 報告書





## 目次

1. きらきらサポート 記録例 . . . . . 2
  
  2. 各園のまとめと担当心理士よりメッセージ . . . . . 4
- 2020 年度実施園 計 8 園
3. きらきらサポート試行期間を終えて . . . . . 20

### きらきらサポート（きらり巡回相談事業）とは

小金井市児童発達支援センター事業詳細計画に基づき、専門職員（心理士）が園に訪問し、今後の対応等について園の職員の方に療育の面から支援をします。

この事業は「保育・教育の専門家」（みなさま）と「発達の専門家」（きらり）とが集団生活の課題についてともに考え、協働していく事業です。

きらり心理士が各園を訪問し、前半の時間はお子さんたちの生活・活動の様子を拝見し、後半の時間に先生方と話し合い（カンファレンス）の時間をもちます。

保育園は 9：30～14：00、幼稚園は 10：30～15：00 の時間を標準的な訪問時間に設定しています。最終回は「まとめの会」として、カンファレンスのみの実施です。

### 2020 年度のきらきらサポート

2020 年度は、試行期間の 2 年目にあたります。新型コロナウイルス感染症拡大に関する緊急事態宣言の発出もあったことから、前年度より開始時期を遅らせ回数を 1 回減らし、1 園あたり 4 回（まとめの会を含む）の訪問を実施しました。



きらきらサポート カンファレンス・実践記録②

\* 実際に先生方が書いてくださったものを参考に、記録例を作成しています

モデル（クラス名・イニシャル）：	訪問日： 年 月 日	書類送付締切： 月 日
------------------	------------	-------------

< 要因の整理 >・・・カンファレンスにて記入

	困っていること	考えられる要因	具体的な工夫
例1	①友だちとの関わりが激しい 押したり、かっぱい首に抱き着いたり、 ほほをつねる、など ②だめと言われたことを何度もする ③「どうせできない」とすぐにあきらめる	①②意欲や努力ではなく、脳の機能（多動・衝動）としてとらえる ③注意されることが多くなりがち	①②急激な変化は難しい（脳の成熟・成長）ことを頭に入れて接していく ③自己肯定感を高めていけるよう、注意する時もまず 児の理由を聞く
例2	クールダウンエリアに行っている子の姿を見て、「なんで？」と聞いてきたり、エリアを覗きに行くようになった	1人だけ違う行動が許されていると思ったり、うらやましい、ずるいと感じる子もいる	・まわりの子に対し、当たり前と思わず「ありがとう」「がんばっているね」など、認める、ほめる言葉をかける ・まわりの子の甘えを受け止める

2

< 次回までの実践 >・・・カンファレンス後、次回訪問までに実践して、そのようすを記入 記入日： 月 日

	工夫した内容	結果（子どもの姿）
例1	・急激な変化は難しいと話があったので、何回でも根気強く伝えることを大切にした ・注意する時も、注意だけで終わらず、理由を聞くことを心掛けた（注意の回数が多い場合には、毎回聞くのは難しかった）	「どうせできない」「あーあ怒られる」など、注意を受ける時に口にしてしている子もいたが、やってしまった理由を聞き、「そっか、じゃあ〇〇したらよかったかもしれないね！」など気持ちを受け止めつつ、どうしたらよかったかを落ち着いて伝えると、「そうだね」と返事することもあった。
例2	・まわりの子に対し、当たり前と思わず「ありがとう」「がんばっているね」など、認める、ほめる言葉をかける ・まわりの子の甘えを受け止める	その時にそれぞれの子どもががんばっていることを誉め、他の子のよくない行動を指摘したり、大人に教えに来た時には「教えてくれてありがとう」などまわりの子の思いを受け止めていった。少しずつ「なんで（〇ちゃんだけ）？」が減っていったように思う。

< 次回の相談内容 > 次回訪問日： 月 日 例3

お気に入りのおもちゃ等に執着していて、給食やトイレにスムーズに行くことが難しい。おもちゃ等をしまっても何とか探してきて、出してほしいと必死に訴える子も。おもちゃの提供と、しまうタイミングについて考えていきたい。

< その他 > 例4

・園でのようすを伝えると家でも園と同じような関わり方やサポートをして下さる保護者もいて、「関わることや試すことが楽しくなってきた」という話も聞いた。必要時には連絡帳でのやりとりをこまめにしている。  
・就学支援シートを活用している子もいる。

記録例②

きらきらサポート まとめの会シート 【園名： 】

まとめの会実施日：	日	送付締切日：
モデル：		記入者：

<最初に困っていたこと>

<きらきらサポートでの実

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）



<大切なポイント>

<園長先生より>

<先生方の感想等>

## 2. 各園のまとめと担当心理士よりメッセージ

### 【 A 園 】

#### 最初に困っていたこと

- 家ではおとなしいが、園では行動が激しく注意が届かない。
- 落ち着きがなくじっとしていること、黙ってられない子が多い。

#### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
①個別に繰り返し声を掛けた。 ・見通しが持てる様に伝えていった。 ・他の職員への周知。	①見通しが持てるようになったことで安心し、泣いて嫌がることや訴えることが減った。 ・気にかけてくれる職員が増えた。
②大人が「待つ」ことを意識したり、子どもが理解したか一つずつ確認する。 ・他の友だちにも目を向けるように伝える。（○ちゃんの～が良かったよ）などほめていく ・時間を意識できるように時計を見て動くことを伝えた。	②“間”が有効であった。一つ一つ確認していったこともあり話を聞けるようになってきた子が徐々に増えた。 ・自由遊びからの切り換えが上手になってきた。

#### 大切なポイント

- ◇保育の流れや見通しが持てるようにこまめに伝えていく。
- ◇トラブルがあった際には、気持ちの代弁をしてあげる。
- ◇子どもが分かりやすい、短い決め言葉で伝えていく。
- ◇毎日同じことを繰り返し伝える。

### 先生方の感想等

子どもたちへの有効な関わりについて、職員間で共有出来た。外部の方に来て頂いたことで自分達の保育の見通しや工夫を沢山教えてもらい、勉強になった。

### 園長先生より

子どもたちの気になるようすや行動など、どのような角度から向き合えばよいか、また保護者へのお伝えの仕方等、教えていただくことが出来、勉強になりました。今後も今回のサポートを参考にしながら子供たち一人一人へのより良い保育を心がけて参ります。

#### 《担当心理士よりメッセージ》

- \* 園と家庭での様子の違いに対して、保護者に何をどのように伝えるかを話し合いました。切り替えが苦手なお子さんに切り上げ前に何回か予告をしたり、混乱している時には気持ちの代弁をしてあげることで、ずいぶんとスムーズにクラスの活動に合流できるようになりました。落ち着いているクラスだったので、まわりの子のまとまった行動がよいモデルになっており、先生の配慮とクラスのかでよい変化が生まれました。
- \* クラス運営では、刺激に弱いお子さんや切り替えが苦手なお子さんが複数いるクラスで、集団をどのようにまとめ、やるべきことを伝えていくかをテーマに話し合いました。リーダーの先生が、子どもたちの注目を得やすい言葉かけの工夫をしたり、聞く体制が整うまでの「間」を意識したり、ふざけていい時間・ちゃんとやる時間のめりはりを時計で予告したりしながら、徐々にクラスの「聞く力」が育っていきました。パワフルな子どもたちを叱ったりすることなくまとめていく先生の姿に感心しました。

## 【 B 園 】

### テーマ1

#### 最初に困っていたこと

- 思い通りにならないとかんしゃくを起こし攻撃的になる。
- やりたくないことや面倒なことを避ける。

#### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人が気持ちを汲みとったり受け止めたりし、言葉に置き換える。</li> <li>・かんしゃくが起きそうなことが予測される時は先に声をかけ、かんしゃくを起した時にはクールダウンしてから話をする。</li> <li>・苦手なことに対して大人と一緒に取りくんだり、方法を教えたりする。</li> <li>・成功するようなサポートをする。</li> <li>・好ましくない行動は注目しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の気持ちを少しずつ言葉で表すようになり、かんしゃくを起こすことが減ってきた。</li> <li>・友だちと場を共有したり、前にできたことを思い出し少しずつ取りくめるようになった。</li> </ul>

#### 大切なポイント

- ◇担任だけが抱えこまないよう、園全体で共有していくなどチーム連携の大切さを感じた。
- その結果その子にとって良い関りをする事ができた。

### テーマ2

#### 最初に困っていたこと

- 個別対応の多いともだちへの、子どもたちの疑問・不満にどうこたえたらよいか
- 嫌なことをされて登園したくない気持ちの子

#### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<ul style="list-style-type: none"> <li>①個別的な配慮の必要な子だけでなく、周りの子に対しても、できて当たり前と思うのではなく「ありがとう」「助かるよ」など、色々な大人が声を掛けた。</li> <li>②トラブルになりそうな時や起きた時は大人の見守りの中で解決できるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①クラスの子どもたちも色々な大人からほめられたり感謝されることで嬉しさと自信につながり、個別対応について注目することが減った。</li> <li>②お互いの気持ちを直接伝えたり大人がサポートすることで気持ちの切り替えができるようになった。</li> </ul>

### 大切なポイント

- ◇個別的な配慮の必要な子への対応だけでなく、クラスの子ども全体へ目を向ける大切さを学んだ。
- ◇園の職員みんなで対応する大切さを感じた。

### 先生方の感想等

- ◎紙に落として整理することで原因・工夫等がわかりやすかった。
- ◎特定の子だけでなく、周りにいる一人一人を見る大切さを感じた。
- ◎保護者への寄り添いの大切さを知った。

### 園長先生より

自分の気持ちをうまく伝えられない子が保育者に受け止められ、言葉にしてもらうことで気持ちが安定するように、職員もきらきらサポート担当者に自分たちの対応を確認してもらったことで、学びや自信につながることができました。ありがとうございました。

#### 《担当心理士よりメッセージ》

- \* カンファレンスには担任の先生のみならず、毎回、園長先生・看護師・主任・幼児クラスの先生・乳児クラスの先生が多数参加してくださいました。多職種・多方面から子どもたちの姿の報告や、乳児期からの変化など長いスパンで振り返り、担当心理士も勉強になりました。
- \* 園全体のサポートがあることで、担任の先生が活発なお子さんへの試行錯誤を安心して実践し、クラス全体のお子さんにもがんばっていることを伝えてあげるゆとりができ、クラス全体が成長していったケースでした。年長児ならではの就学に向けての準備と保護者サポートも手厚くされていました。

## 【 C 園 】

### テーマ1

#### 最初に困っていたこと

- ことばかけなどを十分に理解するのが難しいと思われる時の対応
- 困っている、怒られた時など、「なんで困って(怒られて)いるかな?」がわからない時の対応

#### きらきらサポートでの実践(抜粋)

工夫したこと	結果(子ども・クラスの姿)
・文章でなく、単語で伝える。 ・「何でだと思っ?」より、答えを先に教える。	・困ってフラフラしてしまうことが減った。 ・1つひとつ指示が入るから出来る事が増えた。

#### 大切なポイント

- ◇目からの情報入力は強く、耳から(言葉をキャッチする力)の情報入力は弱いという場合がある。指示を出す時は2個までにするとよい。今後集団に向けて話をするときは「○○くん(○○ちゃん)、大事な話をするからね」と子どもが注目していることを確認する。
- ◇助けてほしい時のワードを決めて、子どもから助けを求められるようにしていく。

#### 先生方の感想等

今まで何でだろう?と思っていたことが、教えて頂いた声掛けや工夫に変える事で子どもたちが落ちついて生活できるようになったり、クラス全体がすごしやすい雰囲気となった。

きらきらサポート担当者との話し合いで子ども達の成長と一緒に喜びあえた事が何より嬉しかったです。ありがとうございました。

#### 園長先生より

わからないことの多い子に対して、正面から向き合ってしまいがちでしたが、分かりやすいご指導のもと、みるみる対応にも変化が見られ、結果子どもたちも成長し落ちついて生活できるようになりました。職員も手応えを感じられ、自信にもなりましたし貴重な時を共有できました。ありがとうございました。

### テーマ2

#### きらきらサポートでの実践(抜粋)

工夫したこと	結果(子ども・クラスの姿)
・行動を単語で伝える。 ・写真と単語で伝える。	・以前と比べると指示が伝わりやすくなった。 ・混乱した時や、今はそれをやりたくない時などに、写真と言葉で伝えるとすんなり頭に入る日もあった。

## 大切なポイント

- ◇生活において、まず、安心・安全・気持ちを受け止め、指示をわかりやすく伝えてあげること。
- ◇クレーン現象の時に、顔をあわせて「〇〇してほしいんだね」「〇〇するよ」と顔を見ながら行動を言葉にして伝える。
- ◇意思を伝える土台づくりのために、行動に合わせて明確に言葉を伝える。

## 先生方の感想等

最初、苦手な事が多かったり、こだわりが強い子たちへの接し方がわからず悩んでいました。その子たちの思いに気づいてあげられなくて、なんで?と感じる事が多かったのですが、きらきらサポート担当者と一緒に関わり方を学ばせて頂き、考え方が変わりました。又、普段の子どもたちとの関わり、アプローチの仕方にも実践できる事が沢山あり、とても勉強になりました。きらきらサポート担当者もとても親身になり、相談にのってくださり、ありがたかったです。自分の中でこのきらきらサポートで学ばせて頂いたことはとても大きく、力になりました。日々の保育で活かしていきたいです。本当にありがとうございました。

## 園長先生より

発達に配慮が必要なお子さんに、より積極的に対応するように、気持ちも関わり方も変化してきました。きらきらサポート担当者からのアドバイスは分かりやすく職員に届き、子どもと共に成長することが出来たのは、とても大きな財産です。ありがとうございました。

### 《担当心理士よりメッセージ》

- \* 言葉で伝えても理解が難しいお子さんに、わかりやすいメッセージを伝える方法を話し合いました。写真カードを作ったり、かける言葉を工夫することで、園生活で使われる言葉の理解が進みました。並行して、それぞれの子が大好きなおもちゃに似た教材を手作りして、園が楽しく安心して過ごせる場になっていきました。
- \* 「〇歳だからこれができなくては」と向き合うのではなく、子どもがわからなくて困っていることはやることを教えた方がよい、個別配慮するのは「特別扱い」ではなく必要なことなのだ実感したと担任の先生がまとめてくれました。何がわかりやすい工夫なのかをよく観察して、実践することで子どもが成長していきました。



## 【 D 園 】

### テーマ1

#### 最初に困っていたこと

- ①身支度が定着しない、時間がかかる。 ②他者とのかかわりを持ってほしい。

#### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
①身支度に関する一連の流れの表を作った。 ・本人が話をしたいときには、まず話をきいてから身支度に促す。 ・本人が助けを求めてきたときには手伝う。	①最初は表を見て、大人が声を掛けて行っていたが、慣れとともに活用されないことが増えてきた。最近になって、再び時間がかかっている。 ・手先の器用さも関係しているのかもと気づき、1人では難しいことは助けを求めやすいよう声を掛け、求めた時に手伝った。
②こどもの関わりの前に、大人との関係を大切にしたいことがあって人と関わらない側面もあった。 ・本人が大人を誘ったとき、本人のやりたい遊びを一緒にした。	②担任と一緒に展開している遊びに興味をもった子が周りに集まり、一緒にいる場を作ることができた。

#### 大切なポイント

- ◇身支度が遅くて朝に遊ぶ時間が十分でなく、もっと遊びたいと怒った。→先の見通しが立つように、目の前の活動・遊びの時間を指で示したら、少し行動が変わった。
- ◇まだ大人との関係作りが大切。本人のできることもできないことも認め、安心できる場を作る。
- ◇自信がもてず、できないと諦めることが多い。大人がみていることで出来ていることもある。→必要があれば見守り、できたね!と声を掛ける。手先が育っていない場合、身体全体を育てる活動が必要。

#### 先生方の感想等

課題としていたところの要因が、工夫を重ねることで、今まで気付いていなかったところにある可能性が見えてきた。

### テーマ2

#### 最初に困っていたこと

- ①表情が変わらず感情が読み取りにくい。 ②オウム返しが多い。  
③遊びが広がらない。 ④他児に手を出すことがある。

### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<p>③大人が入って遊ぶ。遊びの提案。いつもと違う場所に誘う。</p> <p>*角のような環境を好む印象→室内に段ボールでお家を作った。最初は囲いのみだったが、反応を見て屋根もつけた。</p>	<p>③いつもあまり表情が変わらなかったが、副担任が近づいて遊びに入ると表情が明るくなるがあった。大人と遊ぶことを通して”楽しさ”を知ったかもしれない。大人が関わった遊びをきっかけに、他の子どもとの関わりも見られた。</p> <p>*興奮状態になったとき落ち着いた。他の子ども出入りするようになり、他児との関わりが初めて見られた。</p>
<p>④片付けや円座する時間、大人の側にいてすぐに声を掛けられるようにする。具体的な指示をする。肯定的な伝え方をする。フラフラしている時には大人から積極的に声を掛ける。昼食後は本を勧める。</p>	<p>④否定的でなく、肯定的な伝え方をすることでオウム返しはせず、言葉が届いているような印象。昼食後手もちぶさたになり手が出ていたのが、自分から本を選びに行くようになった。</p>

### 大切なポイント

- ◇困っていることをピックアップする→なぜか考え、要因が整理できたことで、どうしたら良いか話し合い工夫につなげることができた。
- ◇関わり方を具体的に考えることができた→実行することで対象児の新たな面に気付いたり、反省を踏まえて別の方法を考える等の作業の繰り返しで、積み重ねていくことができた。

### 先生方の感想等

子どもが何に困っているのか分からず漠然と対応していたが、少しずつ要因、対応が明確になって良かった。

### 園長先生より

うまくいかない・どうして良いかわからないときほど、基本に戻ってじっくりと腰を据えて子どもに向き合い、その育ちの段階からひも解いていくことが必要。

《担当心理士よりメッセージ》

\* 遊びが広がりにくく、輪から外れやすいお子さんについて、大人との関わりを通して子ども自身の遊びや周りとの関わりをどう広げていくかを模索していったケースでした。それぞれの子どもが、何が好きなのか、何に困っているのかなど丁寧に観察され、“生活年齢”ではなく発達段階を探り、場所や内容・伝え方など積極的に工夫しておられました。

\* 先生方の見守りや意図的な関わりが、子どもの安心感の基盤となり、周りの様子に目を向けたり、苦手なことに挑戦する支えとなっていると感じました。

## 【 E 園 】

### テーマ1

#### 最初に困っていたこと

○クラス全体のおちつきがない

○子どもたちの距離感が近い

#### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<p>・年長児への指示を中心に行った。 (帰りの会、朝の会のお当番等、年長児だけの活動も行った)</p> <p>・「いいですか」「はい」のコール&amp;レスポンス。</p> <p>・朝の会での環境設定。 (テープラインと年齢ごとに色わけして貼った)</p>	<p>・年長児へのアプローチによりクラス全体も落ちついてきた。</p> <p>・意識が集まりやすくなった。また、朝の会で基本的に行っていたが別の場面でも、できるぐらい定着してきた。</p> <p>・場所の取り合い等、トラブルもなくなり、なにより、子どもたちも集中している。</p>

#### 大切なポイント

- ◇一日の生活の中で「ひきしめるところはひきしめた設定」とし、メリハリをつける。
- ◇年長児への対応を見直していくことにより、クラス全体の見直しへと繋がっていく。

#### 先生方の感想等

アドバイス通りに行動していくと、子どもたちが目に見えるように変わっていく姿が見られた。年長児への対応を見直していく事により、クラス全体にもつながっていくのは目からウロコだった。次年度にも今年度学んだ事を生かして行きたい。

#### 園長先生より

年長児の動き、クラスへの色々な影響などについてのアドバイスにより、担任1人ひとりが見直すことが出来、全体の流れなどつながりを見つけていけたことは良かったと思う。日々の環境設定や年齢に応じた伝え方など、数か月間学んだことを次に向けて保育していけるよう、つなげてほしい。

### テーマ2

#### 最初に困っていたこと

○人見知りが強く、担任が居ないと大泣きする。

○他児の髪をひっぱる。

○水道や棚にのぼったり、集まりで座ってられない。

○保護者支援。

## きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
①担任が離れる時は「すぐに戻ってくるから待っててね」と声をかけるようにした。 ・担任以外の職員の名前をしっかりと伝え「大丈夫だよ」と話した。	①パニック泣きをすることはなくなり担任以外の職員が入っても大丈夫になった。 ・男性職員にも慣れ、自分からも「タッチ」と言いにいくこともある。
②保護者に対し、出来るようになった事や困っている事に対してどの様に対応しているか知らせた。連絡帳や日々の保護者の言葉から何に困っているかを考え対応していくようにした。	②保護者も心を開いて話してくれるようになったと感じる。成長と共に保護者も子どもの関わりが増え、連絡帳や本児への気持ちの変化も見られた。 ・保護者も広い気持ちで対応できるようになった。

## 大切なポイント

- ◇困り行動は起こる前にさり気なく止めたり、その子なりのコミュニケーションととらえ大きく反応しないのも、ひとつの方法である。
- ◇保護者とはつかず離れずの関係を心がけ、良い関係を築いていく。

## 先生方の感想等

自分たちで考えること以外のアドバイスを頂いたことで、保育の幅がひろがった。保育者が対応をかえていくことで、子どもの行動もかわっていたので、あらたな視点で子どもにかかわっていくことができてよかった。

## 園長先生より

当初、色々な行動が気になったり、担任がいないと不安になる姿が多く見られた中、成長した姿や少しずつ心の安定が見られてきたことはとても良かったと思う。保護者とのコミュニケーションも取れてきたように感じた。クラスの担任間、また進級に当たって関わり方をしっかりと引き継ぎ、寄り添ってほしいと思う。

### 《担当心理士よりメッセージ》

\*子どもへの支援と同時に家庭支援が必要なケースについて先生方と考えていきました。急な変化を求めず長期的なスパンをイメージしながら保護者の心配事へ関わることで、信頼関係の構築には大切であると共有できました。

\*異年齢クラスという発達年齢がバラバラな集団に対し、活動の枠（約束事・指示）を明確にすることで、各々の子どもたちが力を発揮する姿が見られました。特に、年長児に係などの役割を作ることで、年長児は自信を持ち、年中・年少児は良いモデルを取り入れることにつながっていく過程は、とてもよい変化であったと思います。

## 【 F 園】

### テーマ1

#### 最初に困っていたこと

○一斉の指示が通りにくい。 ○かんしゃくが起きたときの対応。 ○爪噛み。

#### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<ul style="list-style-type: none"><li>・友だちと一緒にやってみる。 （選択肢を用意し、選べるように問い掛ける）</li><li>・「やってみる？」という問い掛け。</li><li>・かんしゃくが起きたときには、少し距離をおく。</li><li>・爪噛みは指摘せず、そっと手を外してあげる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・かんしゃくの頻度が減り、起きたとしても、切り替えに必要な時間が短くなった。</li><li>・刺激を求める行動は見られるが、爪噛みはほとんどなくなった。</li></ul>

#### 大切なポイント

- ◇選択肢を作る(2択にするなど)。
- ◇かんしゃくが起きた場合は、深追いせず淡々と引き、様子を見る。
- ◇本人との距離感(対保育者・友だち・父母)。

#### 先生方の感想等

回数を重ねて見ていただけたことで、発達の様子や何ができるようになったかなどを見た上でのアドバイスをいただけたのでとても助かりました。専門的な視点でみていただいたことで、担任として、より気をつけることや、今後の援助の道すじを整理することができました。今回の事を参考に様々な角度から見守っていきたいと思います。

#### 園長先生より

朝の送りの時に子どもと保護者が困っている様子は見られなくなった。クラス内でも落ち着いてきているが、今後も他児とともにいていねいに見ていながら、集団に適応できるように応援していきたい。アドバイスを受けたことを実感しつつ、園での様子を保護者に伝えることで発達支援へつなげていって欲しい。

### テーマ2

#### 最初に困っていたこと

- 場面の切り替えができない。 ○友だちのことが気になって指摘する。
- 同じことを繰り返す子への反応。

### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<ul style="list-style-type: none"><li>・次の具体的な行動を予告する。</li><li>・全体への話しの前に注目を集める働きかけをする。</li><li>・「走らない」ではなく「歩いてね」等のすべき行動を伝える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・具体的な指示で子どもにも伝わりやすく、理解しやすくなったことで、スムーズに行動できるようになった。</li><li>・話し始める前に、注目を集める声掛けにすることで、話が入りやすくなった。また、すぐに静かにできるようになった。</li></ul>

### 大切なポイント

- ◇注目を集めてから話し始める。
- ◇否定的な伝え方をしない。
- ◇目標や手立てを作ってあげる。
- ◇ほめることに意識をおく。

### 先生方の感想等

アドバイスを頂き、実践したことで、クラスの雰囲気に変化がみられた。最初に困っていたことが、今ではほとんど困ることなく、自分のことは自分で行えるようになってきている。これからは進級後の生活に向けて、更なる成長を期待して見守っていきたい。

### 園長先生より

戸外活動前等も担任の話を聞き、静かに行動できている。運動会・発表会という行事を通して、更に成長を感じる。担任不在時も同じに行動できるということが年長に向けての課題。アドバイスを受けたことを今後も忘れずに実践して欲しい。

#### 《担当心理士よりメッセージ》

- \*担当クラスだけではなく、園全体の研修として位置付けていただきました。クラスでの対応を考える際には、園全体としての視点を取り入れながらルールの確認ができました。
- \*“かんしゃく”という困りごとに対し、子どもの立場に立って原因やパターンがないか先生方と検討しました。子どもの個性は千差万別ですが、試行錯誤を重ねることで、その子にとってのちょうど良い距離感を捉えることができてきました。
- \*声かけの工夫を考える際には、“声掛け変換表”などを使い、保育者のクセに気づくことができました。きらきらサポート担当者・先生方ご自身も含め、当たり前になっている対応や言葉を改めて見直す大切さが感じられました。

## 【 G 園 】

### 最初に困っていたこと

- 集団の中での気になる子どもへの声かけの仕方
- 指示が通りにくい、気持ちの切り替えが難しい、色々なことに時間がかかる子への対応

### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<ul style="list-style-type: none"><li>・朝いちばんに外遊びの時間を取り入れた</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・まず発散し、満たされたことで、次への行動への意欲を持つ事ができていた。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・具体的な指示を個別に伝える （例：叩きたくなったら先生に言ってね、イライラしたら離れて遊ぼう 等）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分で気持ちを切り替える事ができたり、具体的な行動にうつす事ができた。</li><li>・やるべき事がある事で、目標達成しやすくなり、達成感を味わうことが出来ていた。また、生活のリズムを整える事ができた。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者と面談をし、様子を伝える</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・同じ目線で話をするようにし、本児の背景や行動の理解を共有することが出来たのではないかと思います。</li></ul>

### 大切なポイント

- ◇事前に声かけや観察等でトラブルになる要因を予測する事で、トラブルになる前に対応できることもある。
- ◇やるべき具体的な行動を伝える。
- ◇トラブルが起きた際、しっかりと状況確認をし、きっかけを探して対応する。

### 先生方の感想等

子ども達への対応の仕方について色々とおアドバイスを頂いたことにより、自分達でも個々にあった対応を考え、実践することができました。また、自分達の関わりや子どもの様子について、客観的に見てもらえたことで、新たなことに気付いたり、自分達の自信にもつながったと思います。ありがとうございました。

### 園長先生より

集団の中での個を見つめる大切さを改めて感じたと思います。サポートに来て下さった先生も、私達の状況や気持ちをくみとり、色々なアドバイスをいただいた事で、成長や変化が見られた事をうれしく思いました。ありがとうございました。

#### 《担当心理士よりメッセージ》

\*自由な活動が多い中で起こりやすいトラブルについて、どのように大人が介入していくのか話し合いました。トラブル発生前に状況を察知し、子どもの特徴をふまえながら事前に声かけをすることを意識してくださることで、大きなトラブルにつながりにくくなることができました。また、活動の順番を変えることで、全体の切りかえがよくなっていく場面もありました。

\*子どもたちの特徴や対応のコツを先生方それぞれで把握していらっしゃる様子でしたが、園全体で情報を共有し、対応を一致させることでより効果があると思われます。1つ1つの対応についても、結果や理由を考えることで、有効な対応がわかりやすくなることも考えられます。今後も、先生方それぞれの対応の工夫やコツを共有する場を継続的に作っていくと、子ども達にとっても先生方にとってもわかりやすい、より充実した保育になっていくと思います。



## 【 H 園 】

### テーマ1

#### 最初に困っていたこと

- 友だちとの関わりが激しい(押したり、カ一杯に抱きつくなど)。
- 個別に約束をしたり、話をしたりしたいと思っても逃げる子がいる。

#### きらきらサポートでの実践(抜粋)

工夫したこと	結果(子ども・クラスの姿)
①声かけの仕方を、否定的にならないように意識した(自己肯定感を高めていけるよう)。	①「どうせできないし」「あー怒られる」など、注意を受けるときに口にしていたが、やってしまった理由を聞き「そっか、じゃあ〇〇したら良かったのかもしれないね」など気持ちを受け止めつつ伝え、と、「そうだね」と返事が返ってくる姿が増えた。
②話をしようとする時と逃げた時は、話せるようになったら来てね」や「長い針が6になったら話そうね」など、時間をおいてその子のペースで話せるよう意識した。	①プラスな声かけを意識することで子どもどうしの接し方も少しずつ変わってきた。 ②段々と短い時間で気持ちを切り換え、話せるようになった。 ②自分のしたことについて、ふりかえりができるようになってきた。

#### 大切なポイント

- ・保育士側も配慮しながら、多動・衝動性のある子は急激な変化は難しい(年齢による成長も大きい)ということを入念に入れ、それぞれの子のペースで成長していけるよう見守ることが大切。
- ・いろいろな所に注意が向いてしまうため、きっかけとなるものを片付けておく、1人で過ごせる場所を作るなど、環境づくりが有効。

#### 先生方の感想等

職員会議などで様子を伝え共有し合うことで、それぞれの子への接し方を考えることができた。

#### 園長先生より

日々、保育をする上での悩みや困難な場面を専門職からの視点で助言をいただき、園全体で共有することができ大変貴重な時間となった。

### テーマ2

#### 最初に困っていたこと

- その場で個別対応している子に注目が集まってしまう(なんで〇〇くんは良いの?)。
- ルールを守らない子、手が出る子を嫌がる姿が出てきた(一緒に手を繋ぎたくないという姿も)。
- 落ち着きがない。 ○声大きい(静かに過ごしてほしい時)。

### きらきらサポートでの実践（抜粋）

工夫したこと	結果（子ども・クラスの姿）
<p>① 良い注目を増やしていく、プラスな声かけを増やす(課題が多い子に対しても”その子に合った認め”を増やす)。</p> <p>② 全体が落ちつきない時に、場面を区切って伝えた。(年中・年長だからと流れて指示するのではなく、分かりやすいところまで一度区切りできたら次へという点を心がけた。)</p> <p>③ 声のコントロール。遊びとして大きい声や小さい声を意識して出す機会を作った。</p>	<p>① 保育士が褒めている姿を見て、真似する姿が少しずつ見られ始めた。</p> <p>① プラスな声かけをすることで、周りのやる気も上がり良かった。</p> <p>② 行動が分かりやすくなったことで、落ち着かない所がどこなのか明白になり声をかけやすくなった。(個別対応が必要な子も分かりやすそうだった。)</p> <p>③ 場面場面で声の大きさを意識するのはまだ難しい姿があるが、「1の声にしてね」など伝えやすく、又伝わりやすくなった。</p>

### 大切なポイント

- ◇ 伝わりやすい所で区切る。又、区切る際には最後は何をして待つのか終わりを明確にする。
- ◇ 上記のことはクラスが落ちつかない点にも効果的だと思うが、クラス内でいじわるされたなどの話が上がった時にも、区切ることで子ども達の動きが見やすくなり、大切だなと感じた。

### 先生方の感想等

検討、実践した対応方法は、各クラスでも取り入れ実践できることが多く良かった。

### 園長先生より

対応を考えることで、自分自身の保育を見つめ直し客観的に捉える場となった。今後も継続を願う。

#### 《担当心理士よりメッセージ》

\* 行動や気持ちが落ち着かない子どもに対しての環境づくりと、そのような子どもに対して注目が集まりやすく、対応の時間が長くなりがちの中で、同じクラスの子どもたちをどのようにまとめていくか話し合いました。注目されやすい子だけではなく、全体に対して事前に前向きな声かけをしたり、集団のレベルに合った声かけをしていく中で、少しずつ変化が感じられました。

\* カンファレンスには園長先生が必ず出席し、意見をくださいました。その後担任の先生が、子どもの状況やカンファレンスでの話を職員会議などで他の先生たちと共有し、その結果、園全体でそのクラスを支えていこうという方向になったと伺いました。そのように園全体で分担しながらも統一感をもって対応することで、それぞれの子にとって落ち着いていられる環境ができ、クラス運営がスムーズになっていったと実感しました。

### 3.きらきらサポート 試行期間を終えて

◆昨年度の活動を踏まえ、きらきらサポートで使用する一連の書式を見直した。できるだけポイントを絞って記入できる書式とし、記入することそのものが課題点やポイントの整理となるように工夫した。

◆子どもたちや子ども集団の気になる行動等が相談の切り口とはなるが、日々の工夫として部屋の設定や先生方の声かけ、お当番や活動設定等への具体的な工夫も多くあがった。さらに、その工夫を実践してみると効果を感じられ、継続している、という事例が複数あった。きらきらサポートで得られた工夫が、クラス全体の子どもたちにとってわかりやすく、生活のしやすさにつながっていた。

◆きらきらサポートのカンファレンスのみならず、日々の先生方の打合せや職員会議で他クラスの先生方と内容について共有していただいたこともあったと聞いている。お子さんへの対応が統一されたり、他クラスの先生方も気にかけてくれることが担任の先生の安心感につながり、お子さんの安心感にもつながっていた。

◆お子さん自身が困っていること、という視点で具体的な場面をあげながら保護者の方とお話ししていただくことで、園の先生方と保護者の方がお子さんの集団生活での課題について共有できた事例が複数あった。「〇〇ができなかった」「困ったことがあった」ではなく、「△△を手伝えれば〇〇できた」「行動の裏にある、お子さん自身の困り感」に焦点を当てることで、保護者と共有しやすくなった。

◆園だよりや保護者会のような普段の情報発信の中で「市内には児童発達支援センターきらりがある」ことや「園がきらきらサポートを利用する」ことを保護者全体に伝えたり、玄関にパンフレットを置いたりするなど、発達について話やすくなるような取り組みをしている園もあった。

◆きらきらサポートでは、個々の子どもの発達という視点だけではなく、集団作り、クラス運営への支援など、集団の育ちという視点も必要となることから、担当心理士に求められるスキルも多くなる。きらり内における人材育成にも努めていく。

◆2年間の実践から、園の先生方ときらり心理士で行うカンファレンスにおいて、課題を整理し、対応を考えていくプロセスが大変重要であると実感した。これらの実践を今後のきらきらサポートに生かし、園の先生方とともにお子さんの成長を支援していきたい。

## 令和 3（2021）年度巡回相談事業（きらきらサポート）について

- ◆ 2年間の試行期間を踏まえ、令和 3（2021）年度の準備を進めている。
- ◆ 1園につき 5回（まとめの会を含む）の訪問、8園を予定  
（応募数：令和元年度は 15園、令和 2年度は 11園）
- ◆ 令和 3（2021）年度の予定
  - ① 5月中旬 市内認可保育所、幼稚園、子ども園（41園）へ  
以下の書類を送付（済）  
「きらきらサポート 2020 報告書」  
「きらきらサポート利用の手引 2021」 質問は電話で受け付け  
「申込書」 申込は FAX にて受け付け 5月下旬〆切
  - ② 6月上旬までに実施園決定、通知  
応募園多数の場合は、過去に実施した園以外を優先
  - ③ 6月中旬～下旬に説明・打合せ（配慮点等）  
事前書類の提出を依頼
  - ④ 6月下旬～7月上旬より訪問を開始
  - ⑤ 1月～2月中旬までに訪問最終回（まとめの会）
  - ⑥ 3月～4月にまとめに基づき報告書を作成

## 令和3年度講演会・研修会について

- ◆新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインや広めの会場も活用する。
- ◆ペアレントトレーニング等、グループワーク・ロールプレイの要素がある研修は通常より人数を減らし、動画の活用、フェイスシールド着用等の対策を行う。
- ◆参加のしやすさを考慮し、新規に土曜日を活用したペアレントトレーニング(短縮版)を企画(8名程度募集のところ、4名の希望)。

種別	期日	内容	講師
一般市民向け 講演会	9月22日(水) ※オンライン	子どものネット・ゲーム依存 ～理解と対応について～	三原 聡子 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 臨床心理士
一般市民向け 講演会	7月頃	昨年度 No.1～4 に続き、紙面講座「きらきらレポート」を作成し、きらり利用者・市内保育園・幼稚園・子ども園・学校・学童・その他関係機関へ配布。 3～4つのテーマを予定。	
支援者向け 研修			
支援者向け 研修	7月21日(水) ※オンライン	仮) からだの動きについて	きらり作業療法士
きらり 保護者向け 学習会	情報提供	◎「就学相談等説明会(5/14)・公式 YouTube」案内 ◎就学相談の流れ・就学支援シート等紹介	
	11月8日(月)	仮) 医療機関の活用について	きらり臨床心理士
	7月～9月	仮) 子どもとの関わり方	梶原 千恵 言語聴覚士
	①5月～7月 ②9月～12月	ペアレントトレーニング(幼児) 6回+フォローアップ1回	きらり臨床心理士
	①4月～7月 ②9月～12月	ペアレントトレーニング(学齢) 6回+フォローアップ1回	きらり臨床心理士
	5月～7月	ペアレントトレーニング(学齢) 短縮版 4回+フォローアップ1回	きらり臨床心理士

## 令和 3 年度運営協議会開催日程について

## 1 年間開催回数

4 回

## 2 次回以降の予定

回	開催日	時間	場所
第 1 回	令和 3 年 5 月 2 7 日 (木)	午前 1 0 時から正午まで	小金井市役所本庁舎 3 階 第 1 会議室
第 2 回	令和 3 年 8 月 2 3 日 (月)	午前 1 0 時から正午まで	小金井市役所本庁舎 3 階 第 1 会議室
第 3 回	令和 3 年 1 1 月 1 1 日 (木)	午前 1 0 時から正午まで	小金井市役所本庁舎 3 階 第 1 会議室
第 4 回	令和 4 年 1 月 2 8 日 (金)	午前 1 0 時から正午まで	小金井市役所本庁舎 3 階 第 1 会議室

※ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、開催中止や場所・方法の変更もあり得ます。その際には各委員にご連絡をいたします。